

指定管理者制度導入施設 モニタリング結果報告書

1 公の施設の概要について

施設の概要	名称	希望の家・ひばり分室
	所在地	(希望の家)五日市374番地5、(ひばり分室)平沢175番地4
	所管課	健康福祉部障がい者支援課障がい者相談係(内線)2622
指定管理者	名称	あきる野市社会福祉協議会
	所在地	あきる野市平沢175番地4
	業務内容	市内に住所を有する就業困難な心身障がい者に対し、作業訓練や生活指導を行い、自立した日常生活を目指す。 ○主な事業は次のとおり 生活訓練、歩行訓練、体操教室、美術教室、音楽教室(希望の家・ひばり分室)アルミ缶回収、バザー出店(希望の家)
ホームページURL		http://www.akiruno-shakyo.or.jp/page/sisetu.html
指定期間		平成30年4月1日～令和3年3月31日

2 施設の利用状況等について

項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
登録者数(人)	330	330	322	301	288
開館等日数(日)	243	243	243	243	244
延べ通所者数(人)	5,759	5,514	5,390	5,061	5,104
平均(1日当たり)通所者数(人)	23.70	22.69	22.18	20.83	20.91

※登録者数は、各月の登録者数を合計しています。

3 施設の収支状況について

(単位:円)

項目		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
収入	指定管理料	11,068,000	11,068,000	11,068,000	11,068,000	11,068,000
	自立支援費等収入	50,957,426	47,711,383	49,440,706	47,346,900	47,990,424
	その他の収入	9,475,168	12,296,678	17,053,742	18,572,813	631,503
	計	71,500,594	71,076,061	77,562,448	76,987,713	59,689,927
支出	人件費	46,582,223	45,522,747	45,658,034	49,535,777	48,783,350
	維持管理経費	9,596,560	8,457,079	9,436,397	8,947,656	8,910,604
	その他の支出	3,656,768	855,145	4,575,467	18,520,904	1,995,973
	計	59,835,551	54,834,971	59,669,898	77,004,337	59,689,927
収支(収入-支出)		11,665,043	16,241,090	17,892,550	△16,624	0

※1 平成29年度までは、前年度の繰越金を「その他の収入」に含み表記しています。

※2 平成25年度から平成29年度までの収支額については、他の会計(地域福祉活動推進事業経費会計)において、希望の家・ひばり分室運営事業に対して支出した経費(人件費、委託料等事務費)があるため、平成29年度末に支出額を算入した上で、5年間の精算を行いました。

4 施設の利用促進や市民サービスの向上の取組

利用者アンケート（実施時期や具体的な方法など）
保護者会を定期的に開催し、サービスに対する評価を確認している。保護者面談は、年2回（9月と3月）実施するとともに、毎日交換している連絡帳により、要望や意見を把握するように努めた。また、利用者の健康状態などの状況に応じて、個別に保護者面談を実施した。
利用者から寄せられた意見・苦情及び対応状況
利用者の方への支援や職員の対応については、送迎の終了後に職員ミーティングにより確認している。利用者からの意見や苦情、要望があった場合にも対応することになっている。このような体制の結果、サービスについては満足しているとの意見が多く、高い信頼関係を築けている。
利用促進のための独自事業、市民サービスの向上の取組など（取組の内容、効果など）
安全と健康面への配慮及び利用者へのサービスの向上に努めている。 地域団体との交流、事業協力者としてのボランティア参加の推進をするとともに実習生の受入れも実施し、地域福祉を担う次世代の育成に役立っている。また、産業祭には、利用者が作ったアクセサリーの配布とともに障がい者理解を呼びかけている。

5 経費削減のための取組

具体的な取組内容
送迎車については、アイドリングストップやタイヤの空気圧を毎月チェックし燃費の向上に努めた。また、グリーンカーテンをつくり夏場の冷房費削減と利用者がない時間帯は、極力照明を落とし節電を実施した。

6 指定管理者による総合評価

利用状況、収支状況などを踏まえて、業務改善につなげていくための総括・自己評価
地域の方々の協力や多くのボランティアの協力を得て、利用者が日中過ごす良い環境づくりが推進できた。施設利用外での利用者個々の様子も極力把握するようにして、個別支援計画の実践と目標に合わせたサービスの提供を行った。 次年度についても、利用者にあった個別対応を実施するとともに保護者との連絡を密にし、情報共有することでより高い信頼・評価を得ることができるよう質の向上を図っていく。

7 所管課による総合評価（太枠にS～Bの3段階で評価を記入）

市民サービスの向上	
定期的に保護者会を開き、利用者及び保護者から見たサービスに対する評価を確認している。また、個別面談や毎日の連絡帳により、要望や意見を把握し、その後の対応やサービスの提供について、所内での情報共有ができています。	
経費削減の取組	
年々、気温が上昇しており、夏場における利用者の体調管理上、光熱費の削減については難しい中、様々な工夫をして節約に努めている。	
業務改善につなげていくための指定管理者の管理に係る総括的な評価	
常日頃より、安全面への配慮及び利用者へのサービスの維持に努めている。利用者全員に個別支援計画を作成し、計画に基づいたきめ細かな支援を行う等、サービスの向上にも取り組んでいる。 今後の利用者の増加に向けた周知、取組など課題の克服に向けた事業実施をするとともに、利用者・保護者・地域住民・ボランティアとの信頼関係の継続と安定したサービスの提供をお願いする。	
総合評価	A

※評価基準

- S：モニタリングチェックシートにおいて、全ての項目が「適正」であり、協定書、事業計画書等よりも優れた指定管理業務を行っている。
- A：モニタリングチェックシートにおいて、全ての項目が「適正」であり、協定書、事業計画書等に沿った指定管理業務を行っている。
- B：モニタリングチェックシートにおいて「要改善」の項目があり、協定書、事業計画書等で定める指定管理業務の一部に課題があると認められ、改善の必要がある。